
あの子じゃないけど 君が好きだよ

秋川優希

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あの子じゃないけど 君が好きだよ

【Nコード】

N43590

【作者名】

秋川優希

【あらすじ】

私 佐竹美穂の初恋の始まりは、はばたき学園中等部の頃。

そう、設楽が私の存在すら知らなかったあの頃から、ずっと設楽が大好きだった。

一目見た瞬間に目を奪われ、あのピアノの音を聴いた瞬間に恋に落ちた。

高等部に進学して、クラスメートとして知り合った。仲の良い友人にもなれた。けれど、告白する勇気が出なくてぐずぐずしている間に、設楽は私とも仲の良い後輩の女の子を好きになってい

た。

そして、その女の子 相川杏子ちゃんが、設楽の親しい友人である紺野と付き合い始めたと報告に来た今日。私は設楽に何をしてあげられるんだろう。

ねえ、私は杏子ちゃんじゃない。設楽が好きな、杏子ちゃんにはなれない。

でもね、設楽が好きだよ。だから、傷付いてるあなたを見たくない。

ねえ、もう1度、あの強気な顔で笑ってよ。もう1度、私が好きになった音でピアノを弾いてよ。

ずっと、ずっと、好きだったんだよ。

プロローグ

ポニーテールに束ねた髪と、泣き黒子が特徴の少女は、音楽室の前で足を止めた。いつもは快活な人柄を垣間見せるその明るい表情は、今はシヨックと、悲しみの涙に、取って代わられている。

少女の悲しみに歪んだ顔は、その視線は、今は音楽室の中、ピアノに向かい合う、ひとりの青年を見つめていた。

その青年は、悲しい、切ない顔で、胸が張り裂けそうに悲しい、けれどどうしようもないほど美しい音を奏でている。

そして、美しい分だけ、それは一層悲しみを引き出す。

音だけではなくて、傷付いた、悲しい色の瞳をしているのに。

その瞳は同時にどうしようもなく美しく。

その悲しいほど美しい色をした青年の瞳からは、涙が溢れることはなかった。

この青年が、こんな顔で、こんな音で、ピアノを弾くなんて。

その理由を、少女は痛いほどに知っていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4359o/>

あの子じゃないけど 君が好きだよ

2010年10月30日19時32分発行